

# ひろば大代

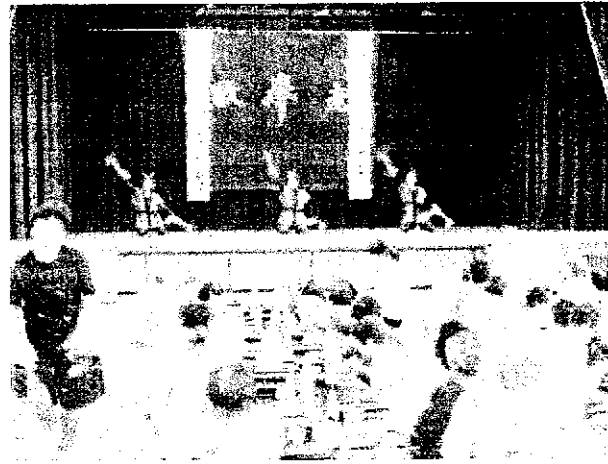
NO.314

大代公民館

H17.9.23

## 祝敬老の日

おめでとつございます。



9/18 小学校体育館にて

## 米寿(八十八歳)を迎えて

本郷 増田長之助

平成十七年の敬老の日に米寿を祝って頂きました。

原稿を頼まれましたが、長い人生何を書いてよいか迷いました。自分は松江で生まれ育ちました。高校卒業時、青春の夢を抱いて北朝鮮新義州に就職しました。



土地にも馴れ、知人も出来、楽しい毎日でした。日支戦争、大東亜戦争が始まって徴収を受け、六年ばかり戦場をかけ回り、特に比島ミンダナオは激戦地で食糧

は無く、ついに高い山に逃げこみ、何とか生き延びてきました。終戦時には栄養失調、脚気、マラリヤに犯され体力の回復をと大代に来ました。山々の緑に囲まれた綺麗な空気、新鮮な野菜で徐々に体力も回復に向かいました。

其のまま大代で年老いた母を見て欲しいと頼まれ、体力も十分とは云えず百姓仕事に経験もなく抵抗を感じましたが、無一物の自分には体一つで頑張れば何とかやって行ける自信はあります。

した。騎兵隊で三年間毎日馬の世話をしていたので、馬と牛は違うけど牛飼いから始めました。牛飼いの順調よくいつて子育てを助けてくれました。高度成長の世の中になって農閑期には七、八名で出稼ぎに国内あちこちと働き大いに助かりました。

こうした思いもよらない人生を過ごし米寿を迎えました。

## 喜寿(七十七歳)を迎えて

下飯谷 和田美代子



この夏は特に猛暑が続いて農作物に大きくひびき、九月に入り大型台風が各地に被害を残し、紙上には次々と事件が載せられ何か落ち着かない昨今です。

喜寿のお祝いを頂きまして、いつのまにか歳を重ねて今日迄来た事に感無量です。地域の皆様のお陰だと深く感謝しております。

私は十人兄弟の十番目長女です。上二人は幼少で亡くなり、二人は中支と大東亜の戦いで亡くなりました。

終戦になり五人の兄達は戦地から次々帰って来ました。私はしばらく兄達の食事に追われる日が続きまして。食べるため一生懸命働きました。そして、敬老のお祝いを受けることが出来、私は兄達に感謝して一日一日を大切に過ごしていきたいと思っております。今は孫からいろいろと話を聞かされ、元氣をもらって過ごしています。皆様方いつまでもお元氣で過ごされますようお願い致します。

## 振り返って

下飯谷 下垣忠雄



思えば、昭和二十七年五月縁あって、当地に來ました。義父が職人だった関係もあって、兼業農家だったので、職仕事と農業とをやってきました。

当時は百姓をするにも機械がなかつ

た時代で、田んぼを起すにも牛を使ったり、その後はテラーでやつたりして大変でした。

「光陰矢のごとし」と言いますが、月日のたつのは早いもので、私も喜寿を迎える年になりました。

五十代の初めに突然脳血栓で倒れ、生まれて初めて入院生活を五ヶ月しました。退院後も右半身が麻痺しているので、職仕事は出来なくなり、一時は絶望しました。が、それからリハビリのつもりで毎日を自分なりに頑張っています。

それから毎月一回「さくらんぼ教室」に出席させてもらっています。

役員の方々やボランティアの皆様方のご好意により、楽しく過ごさせてもらっています。有難う御座います。これからよろしくお願い致します。

## 迎えた喜寿

上飯谷 原田藤江

今年も早いもので月日が過ぎて秋の季節となりました。額に汗を流して一生懸命に作らせてもらった稲も実り、

収穫を得ることが出来ました。感謝をしています。毎年九月に入れば、大きな台風が押し寄せますので心配しました。思えば、戦中戦後と色々の事がありました。

敗戦で終結してから、六十年が経ち、生活がすっかり変わってしまいました。沢山の方々との出会い教えられ、助けられ、又多くの人達との別れ、山を越え、谷を越えて歳を重ねて喜寿を迎える事が出来ました。

敬老会にお招き頂いて、お世話をし下さいました皆様様に厚く御礼申します。有難うございます。

これから先も命を頂いているかぎり一日一日を大切に過ごさせてもらおうと思っております。

## 喜寿を迎えての我が半生記

下飯谷 高村スミコ

この世に生を受けて早や七十七年。過ぎてみればあつと思われる早さでした。その間を、目瞼を閉じて回顧しますと、いろいろなできごとが走馬灯のようにくるくると廻って思い出されて

きます。その一つ一つの出来事を思い

出すと七十七年  
を実感させられ  
ます。



そのなかで私  
たちの年代が一  
番辛く強い影響  
を受けたのはや  
はり先の戦争で  
す。私も漏れな  
く、覚えるとい

ろ、昭和十二年から太平洋戦争までの  
長い間、むしおの皮剥ぎ、松根油の採  
取、竹やり訓練、バケツリレーと挙げ  
ればいろいろと数え切れないくらい  
のことをしてきました。皆さんとともに  
国の為と必死に頑張りました。

また、家族の内、兄二人を戦争で亡  
くし、母は寝たきりの病人であり、当  
時の状況はそれは悲惨なものでした。  
でも頑張りました。

終戦後、この大代の地に嫁ぎ、三人  
子供を育て、現在は孫八人、曾孫二人  
に恵まれ、喜んでいます。

今日あるのも皆様方のおかげと感謝  
しています。今後ともよろしくお願

します。

### 喜寿を迎えて

本郷 島田民一



私は小学校へ  
入学するまでは、  
特に病弱で医院  
通いをしていま  
した。途中で出  
会った人が「今  
日も医者えか  
な」と云われる  
と悲しくなり、  
何とか医者通い  
しない子にしたいとの一念から、小学  
一年生の初めから水浴びをさせられま  
した。

毎日井戸端へ行きバケツ二杯かぶり、  
帰って体が温まる迄タオルで拭きまし  
た。雪の日や井戸へ行かれない時は父  
が牛舎の餌箱の横に「たらい」を用意  
し、水も二杯持って来てくれました。  
母の里へ行った時は、水がめの所へ行  
き水浴びをしました。  
伊勢参りの時を除いて一日も休みま

せんでした。五年生を終る頃には医者  
さんも薬も必要なくなりました。

これが後に出嫁ぎで頑張る事が出来  
る源になりました。体だけでなく心も  
強くなり、ある程度の苦境を乗り越え  
る事が出来ました。妻子を残して冬だ  
け出たのをいれると二十三年余、その  
内、盆・正月だけ帰ったのは十五年位、  
休む程の事もなくやり通した事を嬉し  
く思っております。

そして尚、喜寿の喜びを迎える事が  
できた事は大変幸せです。

振り返ってみれば、幼い時お世話に  
なった医者さんと指導協力してくれた  
父母に感謝し、これからは二十三歳で  
嫁に来て、私が不在中は家と両親を守  
ってきた妻と共に充実した生活を送り  
たいと思っております。

### 敬老月間(九月一日～三十日)

上市社協委員 後藤マサエ

この月間の協賛として大代社協は敬  
老会と施設訪問が実施されました。

参加は社協、公民館、自治会、婦人会  
等の有志が代表で訪問しました。

私は五十八年頃より参加させてもらっています。  
 どこの施設も清潔でお世話される方もやさしい方ばかりです。

本年の訪問先は出雲長浜和光園、頓原琴引の里、大田双葉園、眺峰園、さわらび園、邑南町桃源の家、計六カ所四班に分かれて訪問しました。

おみやげは各施設へ台ふき二十枚づつ婦人会員より、又社協からは本人に志を持って行きました。よろこんで下さいました。お礼状が届いたところもありません。



私がお会いした方は車いすに乗って看護師さんにつれられお出まします。

歩行が困難なのでしようが、見た目にはお元気そうです。笑顔がすてきなお方です。知人の方からお人形をいただき、喜んで話され、ますます話がはずみます。

「今夜はだっこして寝ます。」とほほざりされつぶやいておられる姿は、孫とでも話されているような慈愛に満ちたまなざしでさわやかでした。この姿に出会い、なんとも言えないあつい気持ちになり忘れることができません。

こうして施設で老後を生きておられる方のさまを見習わねばと、つくづく感じ入りました。そのうちお世話になる日も近いこととございます。よろしく。

### 10月行事予定

- \* \* \* \* \*
- \* \* \* \* \*
- \* \* \* \* \*
- \* \* \* \* \*
- \* \* \* \* \*
- \* \* \* \* \*
- \* \* \* \* \*
- \* \* \* \* \*
- ▼ 1日 (土) 新生大田市誕生!
- ▼ 9日 (日) 大江高山登山道草刈
- ▼ 16日 (日) 福祉弁当
- ▼ 16日 (日) 直売所収穫祭

- ▼ 18日 (火) さくらんぼ教室
- ▼ 23日 (日) 連合自治会
- ▼ 30日 (日) 大田市市長選挙

### お知らせ

◎大代地区社会福祉協議会から  
 下市 林 恒行様より  
 右原 渡利忠正様より  
 香典返しにかえ、金一封の御厚志を頂き、厚くお礼申し上げます。



### ※編集後記

「自転車に乗ってどっか行きたいな」  
 ある夜の子供から出た言葉です。  
 私の子供時代遊びに行くにも自転車  
 が唯一の移動手段で親に送ってもらっ  
 たという記憶がありません。雨の日で  
 も雪が降っていても……

最近、街で通勤時間に自転車に乗っている人を見かけます。体力作り、ダイエットなどさまざまですが「環境に配慮して」が一番ではないでしょうか？  
 高山の自然を守るなら、ここ大代でも自転車の活用を考えてみてはどうでしょう。ひよつとしたら自転車で人生変わるかも？

(M)